令和７年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属：スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格：教授
氏名：青山　亜紀

研究課題名	東欧圏における「アスリートの準備に関する一般理論」の学問的発展過程について（その２）
研究目的及び研究概要	近年日本では、様々な知を融合させて諸問題の解決を図る「総合知」活用の機運が高まっている（内閣府HP, 2022）が、「総合知」活用のモデルケースになり得る理論が旧ソ連においていち早く誕生していた。それは1960年代に構築された「アスリートの準備における一般理論 である。この理論の特筆すべき点は、トレーニングの現場で生じる諸問題を実践から帰納的に抽出し、異なる学問分野や科学的アプローチの枠組みの中で蓄積された膨大な経験的・理論的知識を取り入れ体系化された点である。このことは、自然科学に偏重した欧米のそれとは異なり極めて特徴的であるといえる（朝岡, 2017）。昨年度、「総合知」活用のモデルケースにつなげるための知見を得ることを目指し、この理論の学問的発展過程の分析を行った。その結果、「旧ソ連のスポーツ実践の発展（国際競技力の向上）」が不可分の関係にあるという結論を得た。しかしながら、詳細な分析までには至らなかった。したがって今年度は、本研究課題を解決するための分析視点を「旧ソ連のスポーツ実践の発展（国際競技力の向上）」に置き、さらなる検討を進めた。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	１．研究の進捗状況 本研究課題を解決するためには、東欧圏において「アスリートの準備に関する一般理論」がどのように発展してきたのか、その経緯を詳細に調査することが必要となる。本研究では、昨年度課題として挙げられた「アスリートの準備に関する一般理論」の発展過程と旧ソ連の国際競技力の関係性について詳細に調査することが必要となる。そのための方法として、ロシア語圏における当該問題に関する文献を引き続き分析することが必要であった。 具体的方法として今年度は、選手の多年準備プロセス構築における最新の理論「プラトーノフによるマルチサイクル構造のピリオダイゼーション」について焦点を絞り、これまでの研究で示されてこなかったその具体的な展開について分析を実施した。 その成果については、日本体育・スポーツ健康学会第75回大会（日本体育大学）にて発表した。 ２．得られた成果 「マルチサイクル構造のピリオダイゼーション」は、一連のピリオダイゼーション研究の端緒となった「マトヴェイエフ理論」を基礎においており、近年の高度化した競技スポーツの現状、とりわけ試合数の増加という近年の試合カレンダーの重要課題に適合するように検討されたものであった。その構造は、一見するとイスリンによるブロックピリオダイゼーションと同様の特徴を有しているように思えるが、分析の結果、従来のモデルと比較しその構造は非常に複雑であることが明らかとなった。一つのシーズンを近年の試合カレンダーの特性に合わせて複層構造として構築されていることが大きな特徴であった。 ３．今後の課題 今回の研究は、近年のピリオダイゼーション研究における最新理論の具体的な展開についての１事例を示すことができた。しかしながら、このような実践例の提示は未だ非常に限定的であるため、今後は、公開されている各選手の様々な状況における事例を分析することで、「アスリートの準備に関する一般理論」の発展過程と旧ソ連の国際競技力の関係性について明らかにしていきたいと考える。